



# TOKYO NEWS FLASH

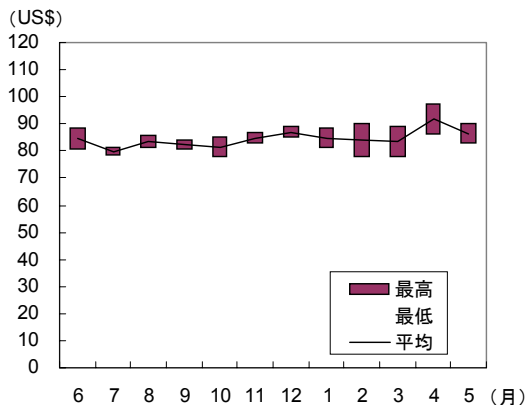
米国食肉輸出連合会 (USMEF)

Volume 240 May 16, 2003

## 米国食肉市場ニュース

### ～ 牛肉 ～

去勢牛の 100 ポンド (約 45kg) 当たりの価格  
(オクラホマシティー・体重 600～700 ポンド)



資料 : Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain

- 注 :
- 2002年6月～2003年5月までのデータ
  - 該当月の第1週のデータより作成 (2002年9月および2003年1月を除く)
  - 2002年9・11月はイヤリングビーフ (若齢牛) による
  - 2002年12月は体重650～700ポンドのイヤリングビーフによる

### 牛肉市況 (4月28日～5月2日)

- **週間と畜頭数 :**  
70万9,000頭 (前年比0.8%減)。
- **牛肉価格 (5月2日/100ポンド [約45kg] 当たり) :**  
歩留り等級3 (YG3) のチョイスは133.81ドル (前週比0.01ドル安)、セレクトは116.79ドル (同2.16ドル安) で取引。YG3のチョイスとYG2～3のセレクトとの価格差は17.20ドルで、2001年6月以降最大。出荷が非常に順調なことから、と畜牛が比較的若齢であることにも合致する結果となった。
- **肥育牛の現金取引価格 :**  
今週は堅調で、中西部の直接取引では平均78.44ドル (前週比0.33ドル高)、ハイプレーンズでは78.05ドル (同0.09ドル高) で売買。飼料の出荷が順調な上、肥育業者も売りに積極的なことから、例年夏場に下落する肥育牛価格は、今年は堅調に推移すると見られる。

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、  
100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	4月28日～5月2日
400～500	100.00～108.50
500～600	93.00～99.00
600～700	83.00～90.00
700～800	76.50～84.50
800～1000	69.50～79.75

(Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain, 5/2/2003)

### ～ 豚肉 ～

### 豚肉市況 (4月28日～5月2日)

- **週間と畜頭数 :**  
180万3,000頭 (前年比3.8%減)。
- **と畜動向 (4月) :**  
日ベースでは約1.1%減。2002年10月の繁殖頭数が前年比2.6%減だったことから、と畜頭数は引き続き、繁殖・在庫頭数に基づく予測を若干上回るペースで推移している。
- **経産・未經産豚の繁殖動向 (3月) :**  
前年比3%減。10カ月連続で前年を割り込んだ。生産性が、繁殖頭数の減少を補うほど向上しないかぎり、と畜頭数は近々、前年を割り込むものと見られる。
- **繁殖頭数 (3月) :**  
4月1日の『Hogs and Pigs』によると、前年比3.4%減。繁殖用の経産・未經産豚の頭数は、3月1日現在では同4%減だったが、4月1日現在では同3.1%減と多少盛り返した。また、4月1日の繁殖用頭数は前月比0.7%減で、繁殖用豚の頭数削減が、少しずつではあるが進んでいることを示している。3月の出生数は前年比3.4%減で、同月の『Hogs and Pigs』による第2四半期の繁殖計画通り。また、1頭当たりの出生数は8.85頭 (前年比0.6%増) で、1・2月とほぼ同じ水準。
- **肉豚の取引価格 :**  
と畜頭数の減少により、一部の市場で前週を割り込んだ。

• **MFA 電話競売における素豚価格：**  
前々週に比べ乱調。

主要市場における 100 ポンド（約 45kg）  
当たりの最高価格（US\$）

	5月2日
ペオリア	36.50
セントポール	37.00
ミズーリ中央部	36.25

185 ポンド物（約 83.5kg）の枝肉平均価格（US\$）

	5月2日
東部トウモロコシ地帯	52.73
西部トウモロコシ地帯	51.50
アイオワ・ミネソタ	51.47
全国	52.19

MFA 電話競売における素豚価格（US\$）

体重（ポンド）	4月28日～5月2日
40～50	89.50～92.00
50～60	76.00～92.00
60～70	72.50
70～80	66.00～72.00

（Hogs—Glenn Grimes & Ron Plain, 5/2/2003）

## 食品安全ニュース

### 食肉・家禽肉のサルモネラ菌汚染率、減少—USDA 発表

食品安全検査局（FSIS）は、同局が 2002 年に実施した生鮮食肉・家禽肉に関するサルモネラ菌の汚染調査について、収集サンプル数を前年の約 4 万 5,941 点から 5 万 8,085 点へと約 25%増加したにも関わらず、サルモネラ菌の汚染率は引き続き低減したと発表した。FSIS では、全 7 カテゴリー（ブロイラー、肉豚、経産牛・雄牛、去勢牛・未経産牛、牛挽肉、鶏挽肉、七面鳥挽肉）のサンプルを収集し、サルモネラ菌汚染の分析を行ったが、サルモネラ菌の陽性反応を示したサンプルは、全カテゴリー合計で 5%から 4.3%に減少した。

USDA によると、全カテゴリーにおけるサルモネラ菌の汚染率は、1998 年の病原菌低減化システム／危害分析・重要管理点方式（HACCP）の義務化前に定められた基準レベルを下回っているとのこと。2002 年に陽性反応数が前年より増加したのは 7 カテゴリー中鶏挽肉のみで、その他は改善したという。

（www.meatingplace.com, 4/18/2003）